

# 日本スペインピアノ音楽学会 JSSPM

## 学会誌 第7号 原稿投稿規定

2022年9月15日改訂

当学会誌に投稿可能な原稿の種類は、スペイン、イベロアメリカのピアノ音楽に関する「論文（原著論文・資料論文・事例報告）」「研究ノート」「紹介・報告」「エッセイ」である。いずれも未発表、未公刊でなければならない。投稿の応募資格を擁する者は、当学会会員に限る。

- 募集分野・・・論文
- 1) 原著論文
  - 2) 資料論文
  - 3) 事例報告
- 研究ノート  
紹介・報告  
エッセイ

「論文 1) 原著論文」は、先行研究を多角的に検討したうえで独創的な知見が示されているだけでなく、脚注などによって、その知見の裏付けを実証的に示す手続きがなされなければならない。

「論文 2) 資料論文」は、客観的なデータの収集と先行研究を検討し、脚注などによって、そのエビデンスを示す手続きが必要である。

「論文 3) 事例報告」は、レッスンやワークショップなどでの取り組みのプロセスや結果の報告となり、客観的なデータの収集と先行研究を検討し、そのエビデンスを示す手続きが必要である。

\*これらの「論文」は査読審査を受ける。

「研究ノート」は、論文の体裁はとらないものの、学会誌にふさわしい専門的研究や調査報告の記事を指す。

「紹介・報告」には、楽譜、CD、図書を対象とする紹介記事や、演奏会・コンクール・その他の文化活動の記事が含まれる。

「エッセイ」は、当学会誌にふさわしい内容を持つ自由なスタイルによる文章である。

\*編集委員会から誤字脱字・誤りの訂正を依頼することがある。

○投稿応募の申込締切・・・2022年10月31日（厳守）

○原稿提出期限・・・2023年1月31日（厳守）

\*写真・表などの挿入を含めた完全原稿状態での電子データ(Word 文書と PDF 両方)をメール添付する。

〈論文の査読及び原稿の採否について〉

論文の査読は、学会誌編集委員会(以下、編集委員会)が依頼した査読者複数名により行われる。担当の査読者は、独自性、論理性、実証性、有効性などを踏まえて総合的に掲載の可否を判断し、評価を①採択、②修正採択（修正を条件とする）、③修正再査読、④不採択として編集委員会に回答する。原稿の採否は学会誌制作委員会により決定される。修正採択の場合、原稿のページ数の増減は、投稿規定の限りではない。

○投稿申込及び原稿の提出先

日本スペインピアノ音楽学会 学会誌編集委員会 [biblio.jsspm@gmail.com](mailto:biblio.jsspm@gmail.com)

## 《論文・研究ノートの様式》

### 1) 分量の目安

本文、参考文献表、巻末資料、論文の要旨とキーワードを含めて、以下の分量を目安とする（1 ページは文字データのみの場合で 1517 文字）。

<input type="checkbox"/> 論文	16 ページ以上 24 ページ以内
<input type="checkbox"/> 研究ノート	8 ページ程度
<input type="checkbox"/> 紹介・報告	2～5 ページ程度
<input type="checkbox"/> エッセイ	2～5 ページ程度

### 2) 本文の書式について

① ページレイアウト：A4 版、横書き、1517 字詰め

(41 字×37 行、文字数と行数を指定する)

② 余白：上下 30mm、左右 25mm

③ フォント：

タイトル（主題）	14 ポイント、MS ゴシック、中央揃え
英文タイトル	14 ポイント、Century、中央揃え
タイトル（副題）	11 ポイント、MS ゴシック、中央揃え
英文タイトル	11 ポイント、Century、中央揃え
氏名	10.5 ポイント、MS 明朝、右揃え
氏名ローマ字	10.5 ポイント、Century、右揃え

\* 名字を先に全大文字で、次に名前を頭大文字、以下小文字で表記。

例： TAKEMITSU Toru

本文	10 ポイント、MS 明朝（和文、欧文共に）
要旨（論文のみ）	10 ポイント、MS 明朝（和文、欧文共に）
キーワード（論文のみ）	9 ポイント、MS 明朝（和文、欧文共に）

### 3) 章立てについて

① 論文、研究ノートについては、章に分けて構成し、小見出しをつけること。

② 章は 1. 2. …と表記。小見出しも含めて太字。

③ 章の中の項目は 1) 2) …と表記。小見出しから 1 行空ける。

④ 章、小見出し、および項目の数字、ドット、「 ) 」は全角。

⑤ 小見出しは、反復して記載しないこと。

例：◎ 1. アルベニスの生涯

1) 少年期

2) 青年期

× 1. アルベニスの生涯

1-1) 少年期

1-2) 青年期

⑥紹介・報告、エッセイも、項目を分けて執筆する場合は論文に準じる。

## 《記載方法について》

### 1) 作品名及び作曲家の表記について

①作品タイトルは《 》で括る。

②組曲のように複数の曲がまとまって構成されている作品内の個々の曲については、〈 〉で括る。

③書名は『 』、記事名は「 」とする。

④主要な人名は初出時にフルネームで記し、丸括弧内に生没年を併記する。外国人の場合には、フルネームの後に原綴と生没年を併記する。

⑤生没年の数字は en ダーシで繋ぐ。

例： 武満徹 (1930-1996)

例： イサーク・アルベニス Isaac Albéniz (1860-1909)

### 2) 数字、アルファベットについて

本文中の数字（年号、作品番号など）やアルファベットは半角で表記する。

### 3) 本文中の引用について

①短い引用は鉤括弧「 」を使う。

②長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは1行空けて全角2文字下げる。

③引用文中の中略には [……] を用いる。

④楽譜の引用は、都度 © (copyright) を明示する。

⑤引用の出典文献は、本文中で ( ) にて著者姓と発行年、引用ページを明記する。

例： (山田 1960: 139)

⑥書誌情報は本文の後ろの補注にて番号順に表記する。補注および、引用文献の記載方法については、4)、5)を参照のこと。研究ノートにおいてはこの限りではないが、可能な限り論文に準じる。

#### 4) 補注について

- ①原則として尾注を用いる。
- ②本文の当該箇所に上つき数字で示し、その注を本文の後ろに記載する。

例：本文中 「○○○」<sup>1</sup>  
尾注にて <sup>1</sup> 補足説明

#### 5) 引用文献・参考文献・参考資料の記載について

- ①引用文・図版などの出典文献の記載方法は、3) ⑤、4) も合わせて参照のこと。参考文献表は、論文末尾に著者名の五十音順、欧文書籍の場合は著者名のアルファベット順に記載する。
- ②補注で引用の出典文献を明記している場合は、重複を避けて、参考文献としての記載を省略する。
- ③インターネット上の執筆者不明記事（Wikipedia を含む）の引用は禁止とする。インターネット上のサイトを参考にした場合は、以下のように表記。  
著者（年） 「題名」 入手先 URL（閲覧日）

#### 6) 日本語文献の記載書式

- ①文献：著者または編者名 翻訳者がいる場合は翻訳者名 出版年（必要な場合は「関連章名」） 『文献名』（引用文献の場合は、該当頁.） 出版社  
\* 出版年は第1刷の年を表記すること。
- ②雑誌：著者名 出版年「記事題目」 『雑誌名』 巻, 頁.
- ③新聞：『新聞名』 刊行年月日, 頁.（執筆担当記者名が記されている場合） 記者名 刊行年月日「記事名」 『新聞名』 頁.
- ④CD ブックレット：解説者名 リリース年 《CD タイトル》 演奏者上限3名（複数名を記載する場合はそれぞれを・で区切る） 制作会社 制作地（引用文献の場合は、該当頁.）
- ⑤引用の範囲を示す場合は、数字を en ダーシで繋ぐ。一つの文献が2行以上にわたる場合、2行目以降は左端を全角2文字分下げる。

#### 7) 欧文文献の記載書式

- ①欧文文献の著者名は、姓, 名 の順に表記する。  
例： Granados, Enrique
- ②『 』は使用せず、タイトルはイタリック体で表記すること（シカゴマニュアル）。引用文献の場合、該当するページ数は最後に入れる。  
例： Clark, Walter Aaron 2006, *Enrique Granados Poet of the Piano*, Oxford University Press, 142-143.

- ③編集書である場合、編者名のあとに(Ed)、複数いる場合は(Eds.)を付す。
- ④CDブックレットの場合、解説者名(リリース年)、CDタイトル(イタリック体で表記)、演奏者上限3名(複数名を記載する場合はそれぞれをセミコロン ; で区切る)、制作会社、制作地(引用文献の場合は、該当頁。)

例： Paniagua, Carlos (2002), *Mudéjar*, Olavide, Begoña (Voz, Salterio);  
Amusatogui, Ramiro (Ud); Estevan, Pedro (Percusión), JMPA005 JUBAL,  
Málaga

\*括弧やカンマも半角とする。カンマとセミコロンの後は半角空ける。

## 8) 鍵括弧のフォントについて

( ) 《 》 〈 〉 等の鍵括弧は、日本語の文章では、特に理由がない限り全角の括弧を使う。文章の中で、数字や欧文を挿入するためには半角の括弧を使い、その場合は、「(」の前と「)」の後ろに半角スペースを入れること。

\* 〈 《 →全角

< ≪ →全角であるが、数学の記号として使われるため注意を要する。

## 《その他の注意事項》

### 1) 原語の単語の行またぎの処理について

原語の単語が、文末から文頭へかけて行をまたいで現れる時は、その音節分けを辞典にしたがって適切に行う。

### 2) 本文中に挿入する参考資料(図表・写真・グラフ等)の掲載について

- ①本文の内容理解のために最も適切と判断される箇所に記載する。
- ②転載については、掲載元の許可が必要となる場合があるため、十分に留意する。
- ③転載希望の資料について許可申請先が不明の場合は、JSSPM に連絡する。